

2023年6月2日

第5期（2022年度）  
一般社団法人渋谷未来デザイン  
事業報告書

自 令和4年（2022年）4月 1日  
至 令和5年（2023年）3月31日

# 目次

1 現況に関する事項	2
2 事業活動に関する事項	4
(1) 事業の概況	
(2) 主な事業の状況と成果	
① ダイバーシティ&インクルージョン事業	
② 創造文化都市事業	
③ アーバンスポーツ事業	
④ 子育て・教育事業	
⑤ サステイナブル事業	
⑥ スマートシティ事業	
⑦ 市民共創事業	
⑧ 公共空間 NEXT 事業	
⑨ コーポレート系事業(法人会員制度)	
3 パートナー企業に関する事項	9
4 パブリックパートナーに関する事項	10
5 役員に関する事項	10
6 Future Designer に関する事項	11
7 会議に関する事項	12

## 1 現況に関する事項

法人設立後、5年目となった令和4年度(2022年度)は、あしかけ4年にも及ぶ新型コロナウイルスの状況が少しずつ回復され、デジタルトランスフォーメーションを活用したライフスタイルの定着、世界的なスポーツイベントにおける日本人の活躍による盛り上がり、外国人観光客の受け入れ開始、延期になっていたリアルイベントの復活など、新しい生活様式を導入しながら次なる時代に向けて社会がポジティブに変革していく兆しが見えてきました。しかしながら、経済成長の鈍化、格差社会や環境問題への対応など引き続き社会課題に積極的に取り組む必要があることには変わりありません。

渋谷未来デザイン(以下FDS)では、コロナ禍の制約があっても、必要な感染対策などを徹底しながら、今、できることを着実に進めることに全力で取り組み続けてきました。その結果、継続的に取り組む事業を拡充させることができ、更には時代を先取りしたいいくつかの新しいプロジェクトもスタートさせることができました。

5年目を迎えた「SOCIAL INNOVATION WEEK(以下SIW)」は、「アイデアと触れ合う渋谷の6日間」として、127にわたるカンファレンスや体験プログラムを実施し、期間中全国から約13万人が参加しました。プログラムの中には、前年のSIWがきっかけで生まれた「#しかたなくないプロジェクト」や「渋谷スマートドリンクプロジェクト」によるアイデア会議の実施、渋谷区は「シブヤ・スマートシティ推進機構」の設立を発表しました。

2022年12月には「第35回 小学館DIMEトレンド大賞」において、渋谷5Gエンターテインメントプロジェクト「バーチャル渋谷」がIT・ビジネス部門賞金賞を受賞しました。2020年に立ち上がった渋谷5Gエンターテインメントプロジェクト及びバーチャル渋谷は複数年で多くの賞を受賞し、引き続き様々な業界と連携しながら発展を続けています。そこから生まれた「バーチャルシティコンソーシアム」は、2022年4月22日にメタバース/都市連動型メタバース業界の発展に向けた「バーチャルシティガイドライン ver.1」を策定し、11月には「バーチャルシティガイドライン ver.1.5」をリリースしました。さらにはバーチャル空間だけに収まらず、本格的にリアルとバーチャルを連動させることを目的に、実在都市の建物・環境を写実性を持ってバーチャル空間に再現した「デジタルツイン渋谷」を拡張する実証実験も行いました。

2022年に本格的に始動した子ども第三の居場所「みらいの図書室」は、約20名の小学生たちと、様々なアプローチで創造性に向き合う一年を過ごすことができました。

新規プロジェクトとしては、2019年まで開催されていた渋谷区総合防災訓練(SHIBUYA BOSAI FES)の流れをくんで、2022年9月に代々木公園において渋谷区民・来街者参加型で「防災・減災」を普及啓発する新しいイベント『もしもフェス渋谷2022』を開催しました。天候にも恵まれたこともあり、初年度にもかかわらず約20,000人が来場しました。本イベントは2021年3月に立ち上がった「もしもプロジェクト渋谷」の一環で、日本を代表する都市である渋谷という街を活用し、新しい「防災・減災」の形を提唱していくチャレンジとして、さまざまな企業・団体との共創により、レジリエントな街づくりをめざ

す継続的な取り組みです。

また新たに立ち上がった「環境アクション」プロジェクトでは、SIWにて渋谷区環境基本計画 2018 を軸にしたシブヤ若者気候変動会議を開催し、Z 世代と企業双方が、共に当事者意識を持ち、アクションを起こしていくための勉強会「渋谷 COP アカデミー」を12月よりスタートさせました。

広報については、オウンドメディアからの情報発信強化に取り組みました。FDS の WEB サイトにインタビューコンテンツ「VOICE」を立ち上げ、理事やフューチャーデザイナー、パートナー企業のキーパーソンなどを取材し、FDS の認知と理解促進を図りました。SNS の強化やキャンペーンを併用することでフォロワー数も増加しました。

パートナー企業への情報共有や満度向上を目的に、新たなコミュニケーションツールを導入し企業からも情報発信できる環境づくりや、マンスリーネットワークキングをリアル開催することで、会員同士の交流の場を強化しました。更に昨年新設したパブリックパートナーも増え、ウェルネス、環境アクションやパブリックスペース利活用などのプロジェクトを推進しています。2022 年度は、118 社の会員を迎えることができました。

財務面については、第 5 期は、助成金やパートナー企業からの協賛金、また法人会費等により、5 億 138 万円の経常収益（売上高）となりました。年間を通して予実管理を徹底し、適切な経費管理を行った結果、最終決算については、2,419 万円の経常増額となりました。

新たに迎える令和 5 年度（2023 年度）については、国内外でのコロナウイルス感染の終息宣言や緩和を迎えるにあたり、3 年ぶりにイベントやリアルな街での活動も活発になる兆しが見えています。FDS としても、5 年間で蓄積した経験と得意分野をあらためて見直し、組織体制と事業の再編に継続的に取り組むことで、渋谷に集う多様な個性・価値観を原動力に新しいカルチャーの創発とソーシャルイノベーションを起こし、都市の可能性を拡張し続けます。2021 年よりイノベーション事業とインキュベーション事業という 8 つの事業カテゴリで運営を行ってきたものを、ソーシャルイノベーションにつながる事業として 5 つのカテゴリに集約し、各プロジェクトを強化・運営していきます。

## 2 事業活動に関する事項

### (1) 事業の概況

FDS が実施した第 5 期事業は、下表(表 1)の通りです。

表 1 FDS の事業体系

事業分野	プロジェクト名
<b>イノベーション事業</b>	
①ダイバーシティ&インクルージョン事業	● SOCIAL INNOVATION WEEK (SIW)
②創造文化都市事業	● 渋谷 5G エンターテインメントプロジェクト
③アーバンスポーツ事業	● ストリートスポーツ“Next Generations” ● FUTURE SPORTS
④子育て・教育事業	● ネウボラ支援事業 ● こども第三の居場所
⑤サステイナブル事業	● 渋谷区公認スーベニア ● 環境アクション ● Women`s Wellness Action from Shibuya ● もしもプロジェクト
<b>インキュベーション事業</b>	
⑥スマートシティ事業	● 渋谷データコンソーシアム
⑦市民共創事業	● ササハタハツまちラボ
⑧公共空間 NEXT 事業	● 公共空間利活用研究 ● パブリックプレイス・渋谷区立宮下公園 XR
<b>その他</b>	
⑨コーポレート系事業	● 法人会員制度

## (2) 主な事業の状況と成果

### ①ダイバーシティ&インクルージョン事業

#### SOCIAL INNOVATION WEEK (SIW)

国内最大級のソーシャルデザインをテーマにした東京・渋谷の都市フェスとして、感染防止対策（開催ガイドラインの策定、来場者と出演者及びスタッフの検温を徹底、オンライン配信とオフライン観覧での並行開催、配信プラットフォーム Twitch における生配信、公式 YouTube チャンネルでアーカイブ映像を無料公開するなど）に取り組みながら開催しました。

2022 年は「渋谷アイデア会議」をテーマに、渋谷の街で産官学民がプログラムを共につくり、議論に参加することで、多様なアイデアが出会い、つながり、触れ合う渋谷の 6 日間（2022 年 11 月 8 日(火)～13 日(日)）となりました。

アワード、カンファレンス、ネットワーキング、エクスペリエンスの 4 つのカテゴリーで 127 のプログラムを展開し、延べ 13 万人の参加がありました。

### ②創造文化都市事業

#### 渋谷 5G エンターテイメントプロジェクト

渋谷区公認「バーチャル渋谷」では、3 年目となるバーチャルハロウィーンイベントを 10 月に開催し、新たなエンターテイメントとして渋谷から世界へ発信、その収益の一部を渋谷区のこどもテーブルへ寄付しました。11 月には区立宮下公園及びバーチャル宮下公園と初めて連動し、女性に対するあらゆる暴力の根絶を呼びかけるためのパープル・ライトアップをバーチャル渋谷にて実施しました。

また昨年度発足した「バーチャルシティコンソーシアム」よりバーチャルシティガイドライン ver1.0 を 4 月に発表、11 月には ver1.5 を続けて発表しました。

その他には、リアルとバーチャルが連携する都市体験として新しい接客体験の実証実験「デジタルツイン渋谷」の拡張を行い、テクノロジーの新たな可能性に取り組みました。

### ③アーバンスポーツ事業

#### Next Generations

2022 年度は「ウィズコロナ」と呼ばれる状況下でありながら、5 周年の節目に相応しく、これまでの実績を踏まえた、体験コンテンツや大会、また学びの機会創りを実施していくことができました。

一部、天候の影響で当初計画していた内容では実施できなかったコンテンツもありましたが、代替企画をもれなく実施。また、こども第三の居場所「みらいの図書室」や「もしもフェス渋谷 2022」での体験コンテンツ実施、SIW や Shibuya Street Dance Week との大会開催連携、アルバルク東京とのアカデミー連携など、例年に増して多くのイベントや団体と、これからの可能性を拓げる取り組みを実施できました。

## FUTURE SPORTS

コロナ禍によって「コミュニティの減少」「大会の減少」が起きたランニングにおいて、渋谷区・代々木公園・ニューバランス3者による産官連携プロジェクト(NB YOYOGI PARKFKT)を立ち上げ、公園を活用したマイクロレースを通じて、公園とランニングの新たな可能性を提供し、延べ3万人近くのランナーが参加しました。

2005年にナイキジャパンから寄贈され、国内外から広く知られるようになった代々木公園バスケットボールコートを自主改修するプロジェクト(YOYOGI PLAYGROUND Renovation Project)を共同で立ち上げ、全国から1,700万円を超える支援を集め、東京都と連携しコートを改修しました。

### ④子育て・教育事業

#### ネウボラ支援事業

2021年度に制作および運用を担った「渋谷区子育てネウボラ」ウェブサイトの渋谷区ホームページリニューアルに伴うアップデートなど年間を通じての保守業務を行いました。

#### こども第三の居場所

2021年1月に開所しました子ども第三の居場所「みらいの図書室」は20名の登録児童を中心に、年間を通じ15時～18時の時間帯で週3日(火・水・木)、全132日開所しました。

1日3時間のうち、1時間を「好奇心の時間」とし、協力企業や地域団体と連携した頭と体を使って創造力を刺激する14のプログラムによる132時間の体験学習を提供しました。子どもたちの未来への関心や共感性、生き抜く力を高めることができました。また、子どもたちに共助の気持ちの芽生えも感じる事が出来ました。

### ⑤サステイナブル事業

#### 公認スーベニア

収益の一部を渋谷区基本構想に基づいた課題解決・まちづくりに還元する「SHIBUKUROプロジェクト」は、2022年度に初めて基金公募企画を実施し、10組以上の団体から応募があり、審査の結果、「文化・エンタテインメント」分野の5つのアイデアに基金還元をいたしました。

また、他プロジェクト(WWAs、SIW)と連携し、新たなSHIBUKUROを作成、販売等を実施いたしました。

#### 環境アクション

渋谷区が進める環境基本計画2018の中間見直しや、地球温暖化対策の促進に関する法律(以下「温対法」という)の一部改正によって、これまで市民が中心であった環境

啓発対象が事業者まで拡大されました。これを受け渋谷区と連携し、SIW2022 におけるシブヤ若者気候変動会議の企画運営や、事業者と若者との対話を通じた環境都市シブヤの未来像を考えるアイデア会議の開催を行いました。また渋谷区民を対象とした環境基本計画の周知を目的とした、地域イベントと連携した環境教室を開催しました。

#### Women`s Wellness Action from Shibuya

「女性の健康が世界を変える」をスローガンに、女性が日々直面する女性特有の健康課題への認知を拡大し、解決のための行動を促進するプロジェクト「Women`s Wellness Action from Shibuya（以下 WWAs）」が2022年3月に発足しました。

初年度は、21社から協賛/協力、80名のサポーターに賛同頂き活動を行いました。

「もしもフェス渋谷2022」では、女性×防災をテーマに登壇、啓発活動を行いました。現地では30名のサポーターとのキックオフを開催し、WWAsのサポーターとして達成したい事を発表しました。

また、SIWでは、子宮頸がんワクチンの意識アンケートや、子宮頸がんの日本の状況などを、パネルで設置し来場頂いた方に啓発を行いました。

#### もしもプロジェクト

もしもプロジェクトは、こくみん共済 coop〈全労済〉、渋谷区観光協会、渋谷未来デザインの3団体が主催し、渋谷区の後援を受けて実施する、共創による防災・減災の普及啓発プロジェクトとして、2021年3月にスタートしました。渋谷の街を舞台に、一人ひとりが「もしも」の日のために何ができるかを考え、備えることで、レジリエントな街づくりをめざす取り組みです。

2022年度は、9月3日(土)・4日(日)の2日間にわたり、代々木公園を会場として、防災・減災を楽しく学べるイベント「もしもフェス渋谷2022」を開催しました。会場内では、さまざまな企業・団体による54の出展ブースや、野外ステージにおける楽しいコンテンツを展開し、2日間で約2万人の参加がありました。

### ⑥スマートシティ事業

#### 渋谷データコンソーシアム

2022年度は、既存プロジェクトを進め定期的な勉強会を実施しました。「デジタルツイン渋谷プロジェクト」では今後の渋谷のデジタルツインにおける中・長期的な展望を取りまとめ、年間の成果物として会員企業への配布及び概要版のプレスリリースを行いました。また新規プロジェクトとして、渋谷区が抱える交通課題に対してデータを活用した政策根拠とソリューションの提案を行うことを目的とした「渋谷トラフィックWG」の設立を行いました。

SIWでは、2022年度に発足した「渋谷スマートシティ推進機構」の設立発表や、プロジェクトの発表の場である「渋谷データコンソーシアム勉強会」の実施、渋谷を代表



するビットバレー4社と渋谷区を迎え、渋谷のこれからを考える「第5回渋谷都市シンポジウム」を実施しました。

## ⑦市民共創事業

### ササハタハツまちラボ

ササハタハツエリアでの暮らしの質の向上を目的に、官民連携したスキームの検討を行いました。玉川上水旧水路緑道を活用した社会実験イベント「388 FARM β」を5月と11月の2回実施しました。11月の開催では企業の出店誘致を行い、3社の企業によるまちとコラボした形での出店が実現しました。

また、情報発信の面ではササハタまちラボ HP のリニューアルを行い、視認性とシステム面の改善を行いました。オウンドメディアでの情報発信の他、外部メディアと連携した情報発信を行い、活動をエリア内外に広く周知を行いました。

## ⑧公共空間 NEXT 事業

### 公共空間利活用

ウォーカブルなまちの実現を目指し、新たな公共空間利活用により地域課題を解決するなど、地域特性や資源を活かした地域主体のまちづくりについて、産官学民協働による計画、試行、実装を支援し、地域価値を向上させていくことを目的として事業を進めました。

2022年度は、自転車対策検討を機とする原宿神宮前まちづくり協議会の活動支援の一環として、明治大学と共同し、「良好な自転車環境構築のためのアンケート」を実施。渋谷区、8町会、8商店会及び美化推進委員会等と課題を共有し、対策検討の基礎としました。さらに、SIWでは、アンケート結果等を題材に、自転車との「共存」、「とめる」をメインにアイデアセッションを行い、今後のまちづくり活動の方向性・協働について合意形成を進めました。また、渋谷区自転車まちづくり協議会恵比寿地区及び代官山地区に東京理科大学と共に参画し、ルールづくりの検討を支援しました。

### パブリックプレイス

公共空間の高度利用の実現を目指し、2022年度もパートナーのDNPおよび宮下公園パートナーズとともに複数のイベントを実施しました。

京都市の情報発信空間「京都館 PLUSX」や、リアルとバーチャル連携型にアップデートした謎解き企画「松丸亮吾の MIYASHITA MYSTERY PARK 2022」、リアル宮下公園で開催のパープルリボン活動と連携した「DECORTÉ Purple Lightup2022 × MIYASHITA PARK」等様々な企画を実施しました。

その他にも今年度は、バーチャル宮下公園を活用した、教育分野での実証実験を開始。子ども第三の居場所「みらいの図書室」と連携したメタバース鑑賞体験プログラムや、カンボジア日本人小学校と徳島県高志小学校をつないだ国際間交流のプログラム等を

行いました。

### ⑨コーポレート系事業

法人会員制度

本年度新たに会員となった企業は表2のとおりでした。

表2 新規会員企業一覧

特別正会員(計1社)	正会員(計16社)
Symmetry Dimensions Inc.	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社、コミュニケーション株式会社、デジタルハリウッド株式会社、株式会社エクシング、株式会社ローソンエンタテインメント、Sakusen Tokyo、Psychlc VR Lab Co.ltd、クラスター株式会社、Community Mobility 株式会社、株式会社コーセー、Koala Sleep Japan 株式会社、株式会社 mediba、花王株式会社、西武信用金庫、スポーツ総研株式会社、株式会社スカパー・ブロードキャスティング
賛助会員(計1社)	パブリックパートナー(計10社)
株式会社ハミングバード	ブラジル大使館、一般社団法人 MUTEK Japan、学校法人青山学院青山学園大学シビックエンゲージメントセンター、一般社団法人 MASHING UP、一般社団法人日本ディーブラーニング協会、公共財団法人ジョイセフ、一般社団法人渋谷ユナイテッド、一般社団法人 Metaverse Japan、一般社団法人未完、一般社団法人あそび庁

### 3 パートナー企業に関する事項

FDS 設立に関わった参画パートナーは表3のとおりです。

表3 パートナー企業一覧 (年度末現在)

参画パートナー(計15社)
渋谷区、株式会社アカツキ、株式会社 NTT ドコモ、京王電鉄株式会社、株式会社シブヤテレビジョン、ソニー株式会社、大日本印刷株式会社、株式会社デジタルガレージ、東急株式会社、東急不動産株式会社、株式会社日建設計、株式会社パルコ、株式会社バンダイナムコアーツ、株式会社みずほ銀行、レノボ・ジャパン合同会社

#### 4 パブリックパートナーに関する事項

パブリックパートナー制度は、パブリックパートナー間、パブリックパートナーとパートナー会員企業との連携、協力による新たな可能性を拡充することを目的とした制度です。国及び地方公共団体、一般社団法人及び一般財団法人、公益社団法人、NPO 法人、学校法人及び独立行政法人、その他が対象で、現在のパブリックパートナーは表4のとおりです。

表4 パブリックパートナー一覧 (年度末現在)

パブリックパートナー(計 17 社)
一般社団法人 SWiTCH、一般財団法人渋谷区観光協会、公共社団法人渋谷区勤労者福祉公社、一般社団法人渋谷再開発協会、一般社団法人日本カーボンニュートラルウェブ協会、一般社団法人渋谷フォント、京都市、ブラジル大使館、一般社団法人 MUTEK JAPAN、学校法人青山学院青山学園大学シビックエンゲージメントセンター、一般社団法人 MASHING UP、一般社団法人日本ディープレニング協会、公共財団法人ジョイセフ、一般社団法人渋谷ユナイテッド、一般社団法人 Metaverse Japan、一般社団法人未完、一般社団法人あそび庁

#### 5 役員に関する事項

理事 6 名、監事 1 名の 7 名が役員総数です。役員の様子は表 5 のとおりです。

表5 理事一覧 (年度末現在)

氏名	地位および担当	重要な兼職
小泉 秀樹	代表理事	東京大学教授
佐藤 仁	理事	東京商工会議所渋谷支部会長
大西 賢治	理事	渋谷区商店会連合会会長
澤田 伸	理事	渋谷区副区長
長澤 貴淑	理事	西武信用金庫 常務理事
佐藤 新子 (長田 新子)	業務執行理事	渋谷未来デザイン事務局長
太田 諭哉	監事	公認会計士、税理士

## 6 Future Designer に関する事項

FDS が執行する事業及び特別正会員が提案する事業案件に対し多様な視点から、事業化の方向性を決めて付加価値を与える助言を行う特別アドバイザーメンバーです。2022年3月15日開催のFDS事業報告会においてトークセッションを開催しました。

メンバーは全8名で表6のとおりです。

表6 Future Designer 一覧 (年度末現在)

氏名	所属
大日方 邦子	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会会長
齋藤 精一	パノラマティクス 主宰
左京 泰明	特定非営利活動法人シブヤ大学代表理事 一般社団法人マネージング・ノンプロフィット代表理事
佐藤 夏生	株式会社 EVERY DAY IS THE DAY クリエーティブディレクター /Co-CEO
夏野 剛	近畿大学 特別招聘教授 情報学研究所長
野村 恭彦	Slow Innovation 株式会社 代表取締役/K.T.I 虎ノ門大学院 教授
林 千晶	株式会社ロフトワーク 共同創業者 取締役会長
若槻 千夏	タレント・デザイナー
関 治之	一般社団法人コード・フォー・ジャパン代表理事

## 7 会議に関する事項

実施された社員総会と理事会は表7のとおりでした。

表7 社員総会・理事会一覧 (年度末現在)

種別	日付	場所	出席	議案
社員総会				
第4回 定時 社員総会	2022年 6月20日	渋谷区役所 9階庁議室 及びWEB会議	社員3名	第1号議案 第4期計算書類承認の件 第2号議案 理事及び監事の選任の件 第3号議案 役員等の職務及び報酬の件 報告事項 第4期事業報告
臨時社員 総会	2022年 9月27日	渋谷区役所 9階庁議室	社員3名	第1号議案 新任理事選任の件
理事会				
第21回	2022年 6月6日	渋谷パルコ 9F 渋谷未来デザイン 会議室及び WEB会議	理事5名 監事1名	第1号議案 2021年度事業報告について 第2号議案 2021年度決算報告について 第3号議案 2022年度事業計画について 第4号議案 2022年度収支予算について 第5号議案 理事・監事候補者の選出について 第6号議案 理事の利益相反取引の承認について 第7号議案 定時社員総会の招集について 第8号議案 フューチャーデザイナー選任について 報告事項 組織体制について
第22回	2022年 6月20日	渋谷区役所 9階庁議室 及びWEB会議	理事5名 監事1名	第1号議案 代表理事の選任について 第2号議案 業務執行理事の選定について
第23回	2022年 9月27日	渋谷区役所 9階庁議室 及びWEB会議	理事5名 監事1名	第1号議案 新任理事の選任について 第2号議案 臨時社員総会の招集について 報告事項 四半期決算について 事業進捗状況について
第24回	2022年 12月22日	渋谷パルコ 9F 渋谷未来デザイン 会議室及び WEB会議	理事6名 監事1名	第1号議案 会員規程の変更について 報告事項 事業進捗状況について 会員状況について 第二四半期決算について 収支見直しについて
第25回	2023年 3月29日	渋谷パルコ 9F 渋谷未来デザイン 会議室及び WEB会議	理事5名 監事1名	第1号議案 2023年度事業計画書(案)について 第2号議案 2023年度収支予算書(案)について 第3号議案 利益相反取引について 報告事項 会員状況について 第三四半期決算及び収支見直しについて 組織体制について

また、渋谷区産官学民連携組織評議員会は表8のとおり開催されました。

表8 渋谷区産官学民連携組織評議員会 (年度末現在)

日付	場所	出席評議員	所属	議案
2022年 8月25日	渋谷区役所 庁議室	針本 正行 (座長) 高橋 裕子 奥野 和弘 阪本 浩 (欠席) 小林 三雄 (欠席)	國學院大學学長 津田塾大学学長 渋谷区まちづくり推進部長 青山学院大学学長 渋谷区町会連合会会長	議題1 令和3年度事業概要と 収支 議題2 令和4年度事業概要